

汎用データフォーマット変換ソフトウェア 「EDI-Master TRAN for ANYs」の新バージョンを販売開始 大手企業やクラウド稼働でニーズが高い Linux OS に対応

キヤノンマーケティングジャパングループのキヤノン IT ソリューションズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：足立正親、以下キヤノン ITS）は汎用データフォーマット変換ソフトウェア「EDI-Master TRAN for ANYs」の新バージョンを 2019 年 1 月 7 日より発売します。

キヤノン ITS は、豊富な機能と高い操作性を兼ね備えた汎用データフォーマット変換ソフトウェア「EDI-Master TRAN for ANYs」を 2001 年から発売し、これまで多数の企業に導入しています。企業間で交換される EDI データを社内システムに連携させるためのフォーマット変換はもちろん、社内外の異なるシステムやアプリケーション間のデータ連携にも柔軟に対応できます。これにより、システム連携時の自社システムの改修を最小限に抑え、開発生産性を向上できるため高い評価を受けています。

2024 年の INS ネットデジタル通信モード提供終了にともない、電話回線を使った従来型の EDI を利用している企業は、インターネット EDI への移行が必要となります。従来型 EDI では固定長フォーマットが中心だったのに対し、インターネット EDI では、XML や CSV など固定長に変わるフォーマットの採用が増えています。例えば、流通業界の EDI 標準である「流通 BMS」や、決済業務の効率化を狙った全銀 EDI システム「ZEDI」は、何れも XML を採用しています。そのため、従来型の社内システムデータと、インターネット EDI データを相互変換するためのシステムが必要となっています。また大手を中心に基幹システムの稼働環境として Linux OS を採用する企業が増えており、EDI システムにも Linux OS への対応が求められています。

新バージョンとなる「EDI-Master TRAN for ANYs Ver4.2」では、EDI-Master シリーズの強みである、使いやすさと高い開発生産性を継承しつつ、いままで未対応であった Linux 環境におけるフォーマット変換への対応を実現しました。

従来からの稼働環境である Windows に加え、大手企業でニーズが高い Linux 環境（Red Hat Enterprise Linux）に対応することで、UNIX から Linux へのマイグレーション対応や、堅牢なシステム構築、クラウド環境における稼働など、より幅広いニーズに応えることが可能となります。

キヤノン ITS は、製造業、金融業、小売・流通業、サービス業などさまざまな業界、業務における「EDI-Master シリーズ」の導入実績があり、パッケージ販売のみならずシステム構築から導入・運用支援にいたるまで EDI システム全般をサポートしています。今後、「EDI-Master シリーズ」を中核とする EDI ソリューション事業で、2022 年までに年間売上高 25 億円を目指します。

- 報道関係者のお問い合わせ先：企画本部 事業推進部 コミュニケーション推進課 03-6701-3603
- 一般の方のお問い合わせ先：プロダクトソリューション営業本部 EDI ソリューション営業部 03-6701-3457
- EDI-Master ホームページ：<https://www.canon-its.co.jp/solution/edi/>
- キヤノンニュースリリースホームページ：canon.jp/newsreleas/

<価格>

製品名	標準価格（税別）	発売日
EDI-Master TRAN for ANYs Ver. 4.2	Linux 版：600,000 円 Windows 版：300,000 円	2019 年 1 月 7 日

<「EDI-Master TRAN for ANYs Ver.4.2」の特長>

●さまざまなファイルフォーマットに対応

JCA や全銀フォーマット、その他固定長や CSV などさまざまなフォーマットのデータから、自社システムのフォーマットに変換できます。

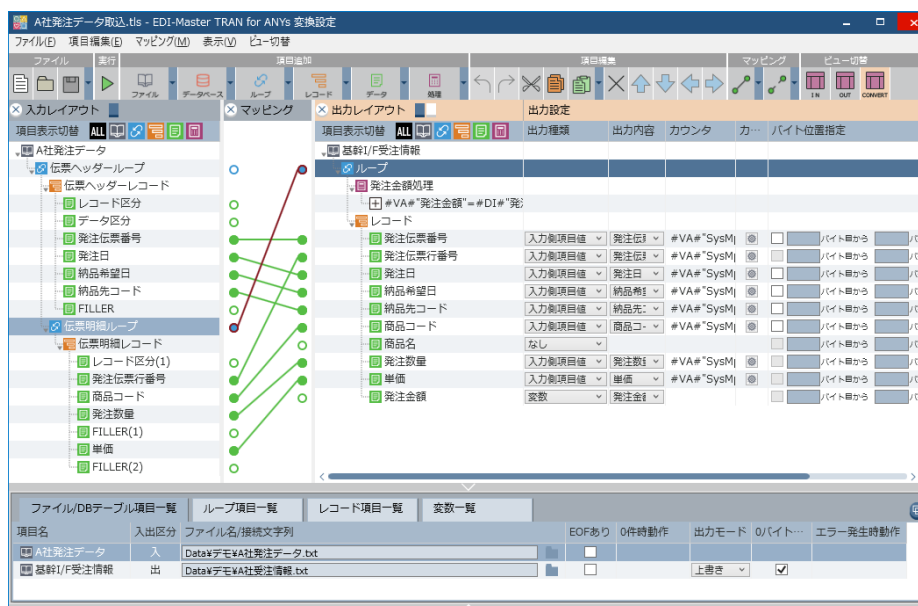
●多くのデータベースにも対応

MS Access、SQL Server、Oracle、MySQL、PostgreSQL などのデータベースに対応しています。
(MS Access、SQL Server、Oracle は Windows 版のみ対応)

受信した他社独自フォーマットの発注データのファイルを販売管理のデータベースに直接取り込んだり、データベースから請求データを請求先企業指定のフォーマットでファイルに出力するといったことが可能です。

●便利で分かりやすいマッピング画面

煩雑になりがちなマッピング作成(変換設定作成)も、画面上で簡単に設定可能です。「ウィザードによる入出力レイアウトのひな型作成」「Excel からの外部データ貼り付け」「一括マッピング」「ループマッピング」「アンドウ・リドゥ」「設計書出力」などの便利機能があり、設定効率に優れています。



●柔軟なインターフェース

変換実行部は、OS の実行形式ファイルでの提供のため、変換モジュールを呼び出すだけで変換を実行できます。もちろん特別な作りこみなしでも、画面上からの操作ですぐに使用できます。

<Linux 環境での運用イメージ>

「変換設定作成」と「設定確認のためのテスト実行」は、GUI の使い勝手の良い Windows 環境で実施し、変換設定配置後、「変換実行」は Linux 環境で行うことができます。

